

ESDをもっと身近に ②

【もったいない、みっともない、申し訳ない】

我が国の伝統や文化の中には、私たちに日本人としての自覚と誇りを育んでくれるものが多数あります。私たちが祖先から引き継いでいる、精神文化もその一つです。

前号で取り上げた諸外国からの賛辞のうち、数本の水を手に入れるために我慢して何時間も並んだのは、極限の状況下で水が【もったいない】からでしょう。

誰一人として食い逃げをしない、暴力や略奪にはしらないのは、そんなことをしたら【みっともない】からです。

破損した民家から救い出される際に、救急隊員に不便をかけたことを誤り、他の被災者を気遣った方は、きっと心の中で【申し訳ない】と叫んだに違いありません。

東日本大震災の直後、海外のメディアは、我が国の品位、謙虚さ、忍耐、礼節、自制、思いやり、献身など、我々が特に意識しないで行動したことに注目しました。その根底には、【もったいない、みっともない、申し訳ない】の三つの精神があったと、私は捉えています。

先人から引き継がれてきた【もったいない、みっともない、申し訳ない】のそれぞれの意味を、私たち大人がもう一度捉え直すとともに、学校・家庭・地域のさまざまな場面をとおして子どもたちに呼びかけ、その精神を次代に引き継ぐこと（「3ない」運動）が、持続可能な社会の実現につながると、私は考えています。



人の痛みを感じるアンテナ

文筆家、クリエイティブディレクター 松浦弥太郎

元気に働いていたとしても、人は誰しも、何かを抱えています。「元気ではありません」と表明する人や、「心の痛みを抱えています」と訴えてくる人ばかりではないのです。一人一人が抱えている、弱さ、疲れ、病い、痛みを感じ取るアンテナを、ぴんと立てておきましょう。思いやりやさしさは、どんなに厳しい仕事をしていようと、失ってはいけないものです。リーダーならなおさらです。

出典：「はたらくきほん100 毎日がスタートアップ」(マガジンハウ)

※ 痛みを感じ取るアンテナを立て、感謝と思いやりの心をもって接したいと考えます。